

かかみがはらの埋文

各務原市埋蔵文化財調査センターだより 第5号



木曾川と承国寺

ご あ い さ つ

名勝木曾川をのぞむ鵜沼の地によみがえった戦国の寺「承国寺」。本年度行われた「承国寺遺跡」の発掘調査では、貴重な成果をあげることが出来ました。現在整理作業をすすめている中からも貴重な資料が見つかることが期待できます。発掘調査の現地説明会はもちろんですが、なにより自分達で集められた地域の情報をたずさえて現場に何度も足を運んで下さった方々の姿に、ふるさとの歴史を市民の皆さんとひも解いていく理想的な事業であったとうれしく思います。

地域の皆さんのお話から、今後の街づくりに生かして行くためにも、埋蔵文化財とその活用が果たす役割の大きさを感せずにはられません。ふるさとを見つめ直す機会として、埋蔵文化財の保護とその活用を今後一層進めていきたいと考えています。

各務原市教育長 浅野弘光

遺 跡 発 掘 調 査

承国寺遺跡 発掘調査

- ・遺跡所在地 各務原市鵜沼古市場町4丁目48・49番地
 - ・開発主体者 林 平吉
 - ・調査対象面積 1465.7㎡
 - ・調査期間 平成8年7月1日から10月31日
- 承国寺は、戦国時代に、美濃国守護 土岐頼益によって創建されたと伝えられるお寺で、岐阜市の正法寺と並び、戦乱を逃れてきた多くの文学僧が集った場所として知られています。今回の発掘調査は、共同住宅建設に先がけて行ったもので、文献に見える承国寺の一角と推定される部分における調査です。以前より、調査区域周辺に残る土塁や伝承から、この付近に承国寺が存在していたことは推定されていましたが、本格的な発掘調査が行われたのは今回が初めてで、「幻の寺承国寺」の姿を明らかにするものとして調査前から注目していました。

発掘調査では、まず調査区域に現存する土塁をたちわって、その構造を調べました。土塁は遺跡の南に位置する木曾川のものと考えられる川原石を積み上げて作られていました。(写真1)

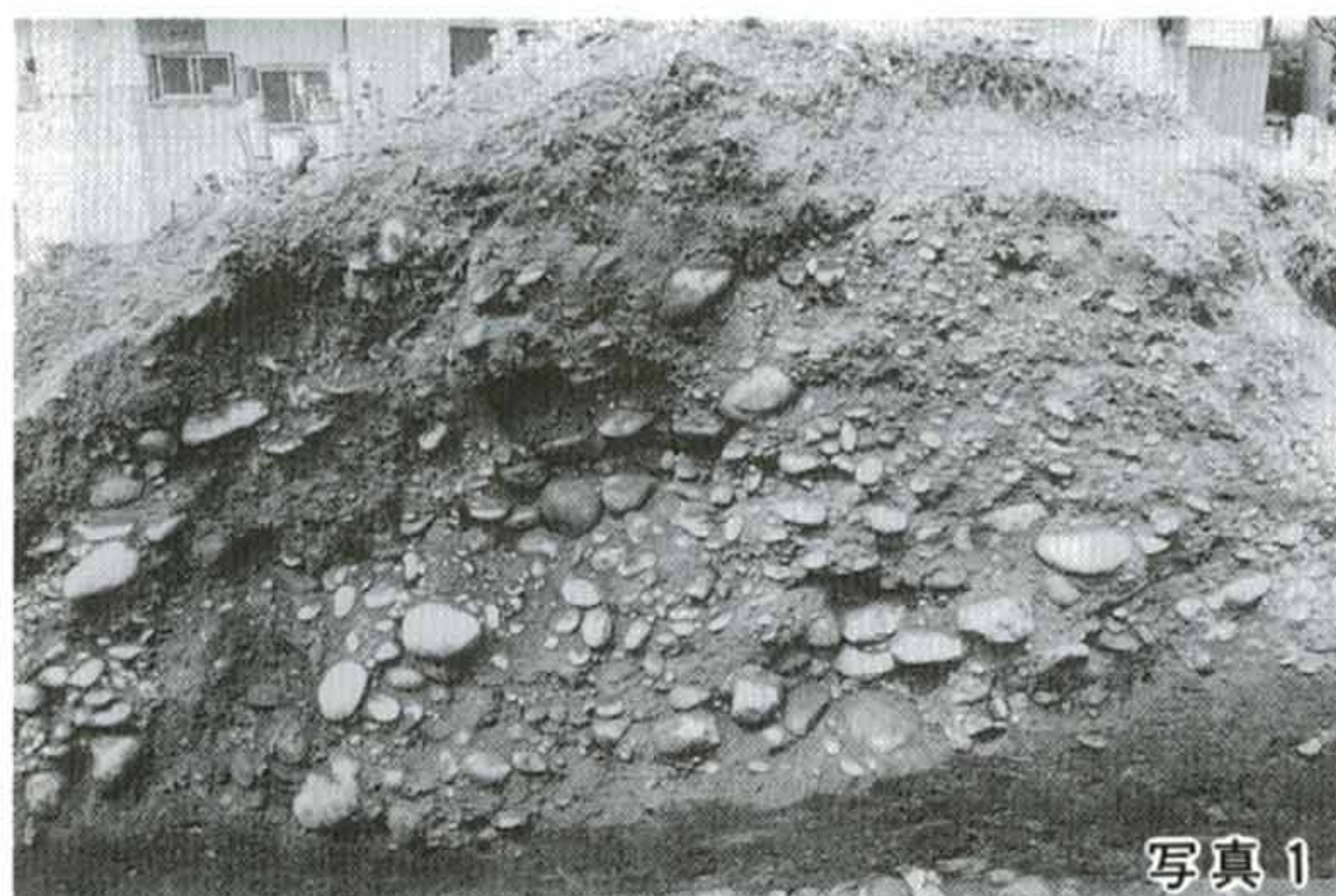


写真1

また、土塁の下からは、この土塁以前につくられた穴が見つかりました。穴の中からは天目茶碗や壺が見つかり、こうした焼き物からその年代は15世紀の末と考えられます。文献などから、遅くとも15世紀半ば頃までには承国寺が成立していたと考えられますから、土塁はお寺の創建時にはまだ作られていなかったこととなります。戦国時代の緊張が高まる中、防備の必要から土塁が作られていった、お寺の移り変わりを知る貴重な資料となりました。また、現存する土塁がお寺の区域を示しているとも考えられてきましたが、この成果からお寺の境内がさらに北にのびる可能性も考える必要が出てきました。

土塁以外にも柱のあたる部分に根石を据えた建物の跡を示す柱穴の列や、お寺の境内を区画したと思われるいくつかの溝などがみつっています。(写真2)



写真2

遺跡がお寺であるという証拠として、溝から見つかったおびただしい量の瓦磚があげられます。瓦磚は、主にお寺の建物の基礎部分に、敷き瓦として用いられたものです。

また、当時の酒宴に用いられたと考えられる“かわらけ”と呼ばれる素焼きのお皿が、まとまって出土した穴もあり(写真3)、大きなお寺の存在をうかがわせます。



写真3

この穴からは50枚以上に及ぶかわらけや、天目茶碗などがみつっています。また、同様の穴から直径約20 cmもの大型のかわらけも出土しています。

平成9年度には、こうした焼き物の詳細な整理をすすめていく予定で、実際にお寺が存続していた期間など、さらなる成果を期待しています。

また、文献からたどる承国寺は、単にお寺であるだけでなく、当時美濃を治めた土岐氏の建立によるため、役所の出張所的性格を帯びていたものと考えられます。最近、注目されている中世の社会を読み解く上でも、その成果に期待しています。

前渡猿尾堤 発掘調査（第2次）

- ・遺跡所在地 各務原市前渡西町地内
- ・開発主体者 岐阜県岐阜土木事務所
- ・調査対象面積 300㎡
- ・調査期間 平成8年10月1日から10月28日

本調査は、一般県道大野・鶴沼線拡幅工事に伴うもので、岐阜県岐阜土木事務所の委託を受けて、平成8年10月1日より同月28日にかけて現地調査を行ないました。

市内前渡西町地内に所在する前渡猿尾堤は、江戸時代につくられた木曾川の堤防施設で堤防本体に沿うように弓張り状に付設されており、現在はその大部分が埋没していますが、本来は全長 286 m、基底部幅は15~17m、高さ約6 mの川原石積みによる長大な構築物です。古い記録によれば、江戸時代全般から明治時代にかけて実施された幾度かの構築や改修工事の結果と考えられます。

猿尾堤の役割としては、洪水時の堤防に当る水勢を弱め、本堤防の崩壊を防ぐことにありました。しかし、明治時代以降の近代治水工事の進展によってその役割もなくなり、かつては木曾川流域の多くの場所でみられた猿尾堤も今ではそのほとんどが姿を消しています。そうしたなかで前渡猿尾堤は、現存する猿尾堤としては保存状態の良いも

ののひとつです。

さて、今回の発掘調査は回数では2度目となります。第1回目の調査は平成元年に行なわれ、今回の調査区の南側を調査しています。その結果、当猿尾堤には3~4回の構築・改修工事の跡が認められ、文献記録と一致することが確認できました。そして、今回の調査では、当猿尾堤と本堤防の取り付け部分が調査範囲となったことにより、前回の調査結果の確認と補強が可能になると予測されました。その結果堤の基底部より3層からなる良好な石積み構築層が確認され、文献記録や前回の調査結果を裏づけることができました。



前渡猿尾堤調査風景

野口廃寺D地区 発掘調査

- ・遺跡所在地 各務原市蘇原新栄町2丁目87番地
- ・開発主体者 (株)サンマートサカイ
- ・調査対象面積 152㎡
- ・調査期間 平成8年11月13日から11月19日

野口廃寺は、白鳳・奈良時代の寺院跡と推定される遺跡で、過去にもA・B・Cの3地点で調査が行われています。（*C地点は立ち会い調査）

今回の調査は、店舗改築に先がけて行ったもので、1基の竪穴住居跡、いくつかの掘立柱建物跡、溝などが見つかっています。竪穴住居跡は、一部



野口廃寺D地区

を穴によって壊されていました。その穴から、お寺が建っていた時代の焼き物がみつかったことから、おそらくお寺の創建以前の住居跡と推定されます。掘立柱建物跡は少なくとも2棟が存在したと考えられますが、調査範囲が狭いことから、その規模については残念ながら明確には出来ませんでした。東側の掘立柱建物跡の柱穴は、同一の場所に2度の掘り込みが見られ、建て直しを行っていることが推定できます。

出土遺物では、須恵器と呼ばれる焼き物や瓦が出土しました。須恵器の中には、直径が20cmを超える大型の鉄鉢形須恵器(*1)なども存在し、一般の集落とは違うお寺の跡であることを物語っています。瓦はそのほとんどが平瓦ですが、軒を飾る丸瓦も一点出土しています。「複弁蓮華文軒丸瓦」(*2)と呼ばれる形式は、過去に行ったA・B地区の調査でも出土しており、こうしたことからお寺の範囲はかなり大きなものであったことが想像できます。

- *1：鉄鉢形須恵器 金銅製の鉢を模して作られた須恵器
- *2：複弁蓮華文軒丸瓦 蓮の花をかたどった文様をもつ軒瓦

三ツ塚遺跡A地区 発掘調査



- ・遺跡所在地 各務原市鵜沼羽場町6丁目76
- ・開発主体者 各務原市建設部土木課
- ・調査対象面積 40㎡
- ・調査期間 平成8年11月26日から平成9年1月21日

三ツ塚遺跡は各務原台地の東端に位置する、戦国時代の塚とされる遺跡です。呼び名の通り三つの塚があり、北を頂点に三角形の形をしています。遺跡を除いたまわりの現況は昭和の土地改良によって大きく変貌していますが、耕作土の観察などから、古くには周囲よりも少し高い土地の西端に

遺跡詳細分布調査

今日各務原市では、大規模な都市開発、農地改良、河川改修等により、旧来の景観は大きく変化しました。それに伴って湿地や荒地、山林など、従来人の手があまり入らなかった場所に長らく眠っていた埋蔵文化財でさえ、開発の波にさらされることが多くなりました。住みやすい都市環境が整備されつつあるなか、埋蔵文化財を取り巻く状況は、今後ますます厳しいものとなることが予想されます。

このような状況を踏まえて、各務原市教育委員会では、平成5年度より国と岐阜県の補助を受けて、市内の遺跡詳細分布調査を実施してきました。遺跡詳細分布調査は発掘調査と異なり、畑などでの遺物の採集、地元住民からの聞き取り、古い文献の検索、航空写真の判読など、多方面から市内の遺跡の所在や性格を明らかにするもので、平成9年度に市内全域の最新遺跡地図と調査結果の報告書を刊行する予定です。

平成8年度の現地調査は、主に稲羽地区の遺物採集に加え、現地調査の最後の年として今までの調査を見直し、過去の那加、蘇原、鵜沼地区を対象に、不明確だった遺跡についても改めて調査を行なっています。その結果、集められた遺物は、土器、石器を合わせて総数3,996点に上りま

位置していたと思われます。

今回の調査は三ツ塚遺跡の南を走る市道の拡幅および歩道敷設工事に伴うもので、範囲は約2m×20mと非常に小さく、南にある塚2基の南面を掘るだけで塚本体の調査には至りませんでした。どちらの塚も中心に木が植えられており、その根がかなりの部分を占めているため盛り土の様子ははっきりとはわかりませんでした。ただ、西の塚についてはどうやら周囲から土をかき集めて盛ったといえそうです。まだ整理の途中ですので別な解釈もできるでしょう。

塚の下から見つかった遺構については、石器や土器などの遺物の出土が少なく、現段階では時代はわかりません。表面調査では三ツ塚には石斧も散布しており、縄文時代の遺構が見つかる可能性も考えられましたが、見つかった遺構はそれほど古いものではありませんでした。

北の塚には板碑が立てられ、今でも毎日ロウソクや線香がたてられています。板碑によると戦国時代、この地にて自刃した鵜沼の城主を弔う塚とされています。その時代、城主の死を悼んで造られたものなのか、それとも別の時代に別の目的で造られたものなのか、今回の調査では明らかにはなりません。



調査風景 下切町付近

した（稲羽地区のみ 他地域については現在集計中）。そのうちわけは須恵器、山茶碗を中心にやじりなど石鏃類や石斧、縄文、弥生土器の破片なども含まれています。また、すべて滅失したと思われていた矢熊山北古墳群では、現存する古墳2基を確認しました。稲羽地区を含む市内全域より集められた遺物は、埋蔵文化財調査センターへ持ち帰った後、貴重な資料として保存されます。また報告書のなかで、遺跡の規模、時代や性格などとともにわかりやすく紹介していく予定です。

現地調査の中心となった稲羽地区は、木曾川が土砂を運んだ沖積地が地域の大部分を占めており、

明確な遺跡や遺物の散布を確認することが、他地域に比べ、比較的困難な地域でした。しかし、各務原台地の南端部や点在する三井山、荒井山など、小独立丘の周辺には多くの遺跡や古墳などがみられ、木曾川がもたらした肥沃な大地を背景とした、先人たちの生活の跡を確認することができます。しかしまた稲羽地区は、肥沃な土地である反面、木曾川からの水害を受けやすく、その歴史は洪水とのたたかいかでもありました。現在の岐阜県浄化センター付近に現存する「前渡猿尾堤」などは、近世の優れた治水技術を今日に伝える、重要な遺跡であるといえるでしょう。

また本年度は、現在までに集められた表採資料について、本格的に室内整理作業も開始しました。現地調査から持ち帰った遺物は、水洗いし、拾った地点ごとに器種の分類集計を行ないます。そしてその結果をもとに地図に表現し、表採遺物の密度分布図を市内全域にわたって作成しました。これは、詳細な遺跡地図を作成する際の原資料となるもので、さらに聞き取り、文献検索、航空写真判読などの結果を加味し、従来の遺跡地図よりも新しく、より精密な遺跡地図を刊行する予定です。



矢熊山北古墳群

各務原市は、都市として飛躍的な発展を遂げた反面、今日までに多くの埋蔵文化財が破壊されてきました。遺跡詳細分布調査は、例えば岐阜県内では、岐阜市、大垣市、高山市などが既に実施しており、大きな成果をあげています。各務原市埋蔵文化財調査センターでは、遺跡詳細分布調査を実施していくなかで、現在市内に残されている遺跡を正確に把握し、地域開発と埋蔵文化財保護の望ましいあり方を模索していきます。

普及啓発事業



現地説明会

当センターでは、遺跡の生の姿をご覧いただける数少ない機会のひとつとして、発掘調査現場での説明会を行っています。こうした現地説明会は、地域の自然や地理との関わりの中で営まれた遺跡を肌で実感していただくという点で、地域に根ざした文化財の保護をすすめているセンターの重要な事業のひとつとなっています。回を重ねるごとに参加者も増え、反響も大きくなってきています。

本年度は10月12日に、「承国寺遺跡」において現地説明会を行いました。小雨という悪天候にも関わらず、150名以上の多くの方にご参加いただきました。また、当日は「あなたの町から」(岐阜放送)の取材もあり、その後もTV放送をご覧になった方々から、多くの反響が寄せられています。

「承国寺遺跡」現地説明会のパンフレットは、当センターでも配布しています。今後も市広報や新聞などを通じて、現地説明会の開催をご案内していきますので次の機会にはぜひご参加ください。

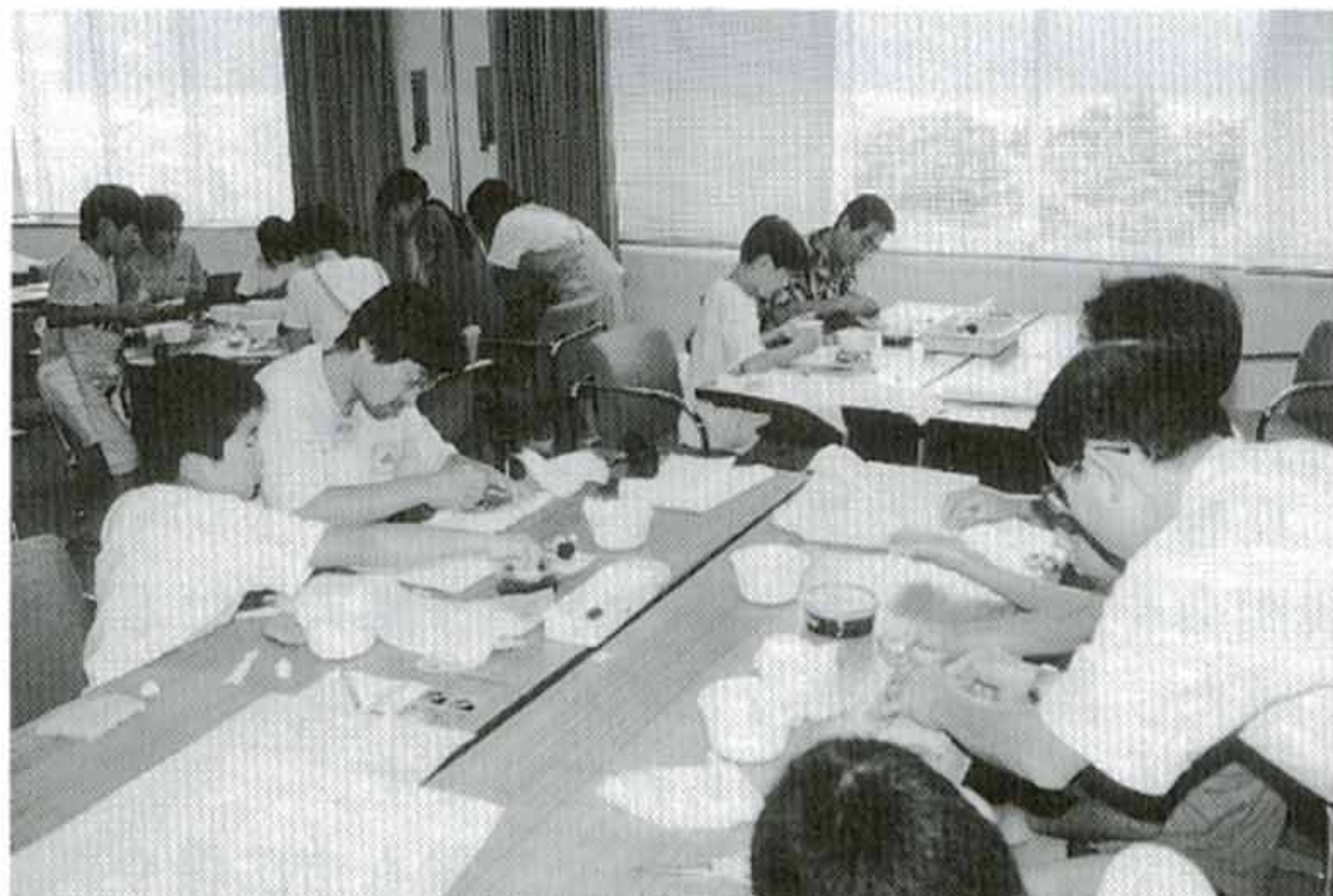
夏休み親子体験教室／展示替え

平成8年8月10・11日（土・日）の両日、広く一般市民の親子のみなさんを対象として、埋蔵文化財の調査業務を体験していただきました。

参加されたのは合計22名（父母7名、中学生5名、小学生10名）の方々に、第1日目は、展示収蔵庫の展示資料からみた郷土の歴史解説のあと、土器の水洗・注記・接合作業など、発掘調査後の地味で根気のいる室内整理作業を体験されました。そして、第2日目は、土器や瓦の拓本採りを行ない、何気ない土器や瓦から、それを作った当時の人々の様々な想いや感触に触れていただき、楽しい時を過ごしていただきました。

親子体験教室参加者アンケート結果から
受講後の感想について

- ・郷土の歴史をもっと知りたい（母親）
- ・簡単な言葉で説明してほしい（中学・男子）
- ・郷土の説明時間をもっと長くしてほしい
（小学・男子）
- ・おせんたくはどうやってやっているのか
（小学・女子）
- ・子供と有意義な時を過ごすことができました
（母親）
- ・学校の授業でできない勉強ができて楽しかった
（小学・女子）
- ・土器の接合が楽しかった（小学・男子）
- ・埋蔵文化財調査センターの実際の作業を見学したかった（母親）
- ・埋蔵文化財調査センターが身近に感じられるようになりました（母親）
- ・子供が興味を示し楽しんでくれました（母親）
- ・各講座の時間をもっと長くしてほしい（父親）



親子体験教室拓本実習

講座に対する要望について

- ・講座の時間を延長してほしい（父親）
- ・楽しかったから3日間やりたい（小学・女子）
- ・発掘作業を体験したい（小学・男子）
- ・土器や石器をつくってみたい（母親）
- ・土器をつくって食事をしてみたい（小学・男子）
- ・縄文人の暮らしを体験したい（小学・女子）
- ・戦国時代の城や砦について勉強したい
（中学・男子）
- ・遺跡の現地見学をしたい（父親）
- ・土器や石器はどんなところから沢山でるのかも
っと知りたい（小学・女子）
- ・子供と一緒に参加できる企画をお願いします
（母親）
- ・また来年も参加したい（小学・男子）

展示収蔵庫の普及啓発活動

各務原市埋蔵文化財調査センターでは、展示収蔵庫（床面積 205 m²）において市内遺跡出土資料の収蔵展示を行なうとともに、前年度の発掘調査事業の速報展示や、各種社会見学・視察などの要望にもお応えして、展示解説リーフレットの作成や、埋蔵文化財からみた郷土の歴史解説などを行なっています。

今年度は、各時代ごとに著名な市内遺跡の展示替えを行ない、縄文時代の^{ろばた}炉畑遺跡、古墳時代の^{はん}半の木洞古墳、奈良時代の^{てんくだに}天狗谷窯跡や古代寺院の^{さんてん}山田寺跡、そして古代集落遺跡の三井遺跡など、全国的にも貴重な考古資料の展示を行ないました。また、平成7年度緊急発掘調査速報展示としては、白鳳～奈良時代の野口廃寺B地区発掘調査、奈良時代末～平安時代初頭の鍛冶工房住居跡が発見された村雨町遺跡A地区発掘調査の展示解説を行ないました。



展示収蔵庫縄文時代コーナー

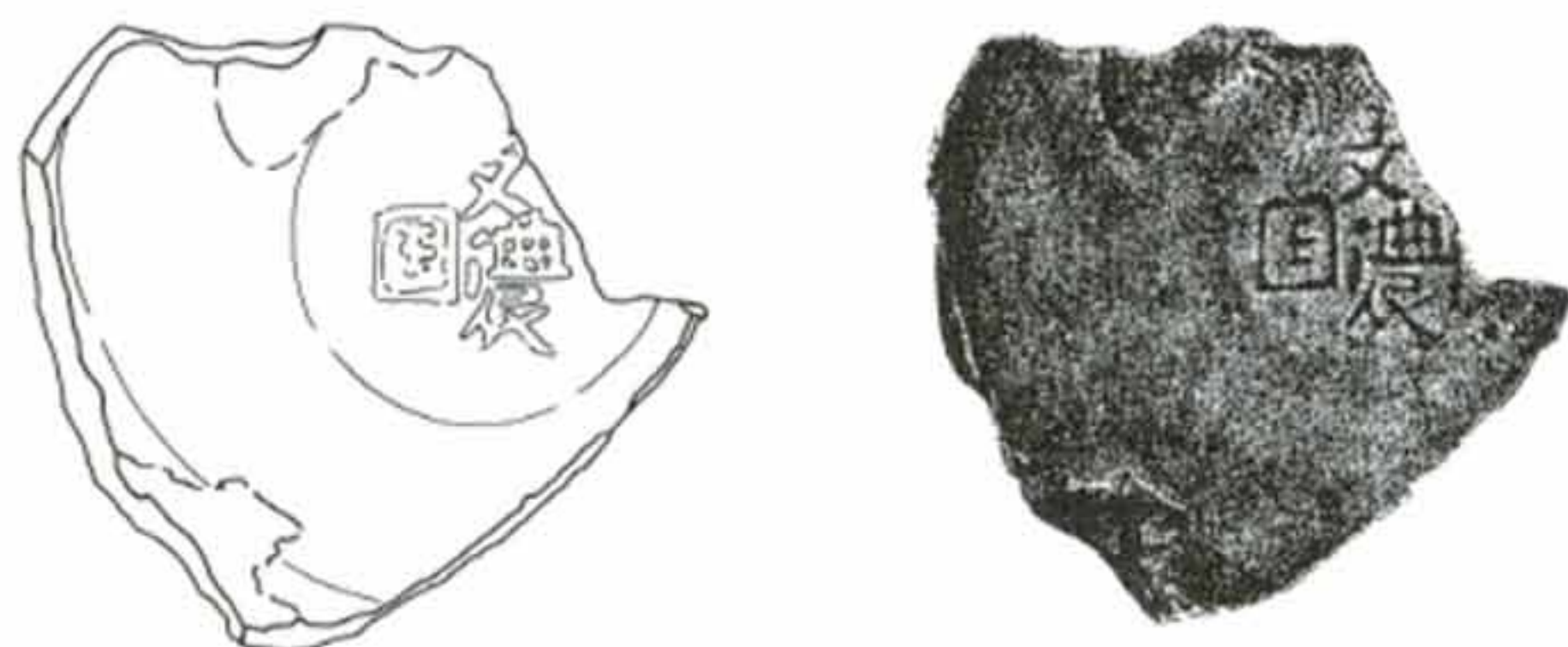
出土遺物科学処理委託

今年度は、昨年度発掘調査を行った村雨町遺跡および野口廃寺から出土した鉄製品について科学処理を施しました。科学処理は、サビの進行を遅らせ短期間の展示にも耐えられるようにするためだけではありません。遺跡から持ち帰ったままだとサビが全体に浮いて原形のわからないようなものでも、科学処理をすることによって当時の形を取り戻すことができます。そうすることで皆様の目に触れるときには、昔の形そのまま用途などがわかりやすくなります。普段は、処理された遺物は乾燥剤と一緒に真空パックして収蔵庫にしまっておきます。

新刊報告書

太田1号古窯跡群発掘調査報告書

「美濃須衛古窯跡群」を代表する「美濃国」刻印を有する須衛器が1点出土したことで注目されている窯跡です。国名を刻印した須恵器は、平城京(奈良)や斎宮跡(三重)から見つかっていることから、律令時代の美濃と中央の関係を示す重要な資料といわれ、今回の発見で、老洞古窯跡(岐阜市)と並んで、太田古窯跡でも刻印須恵器を生産していた可能性を示す重要な資料を提供しました。



寄贈・寄託資料の紹介

(伝)須衛会本地区出土須恵器特殊装飾付器台

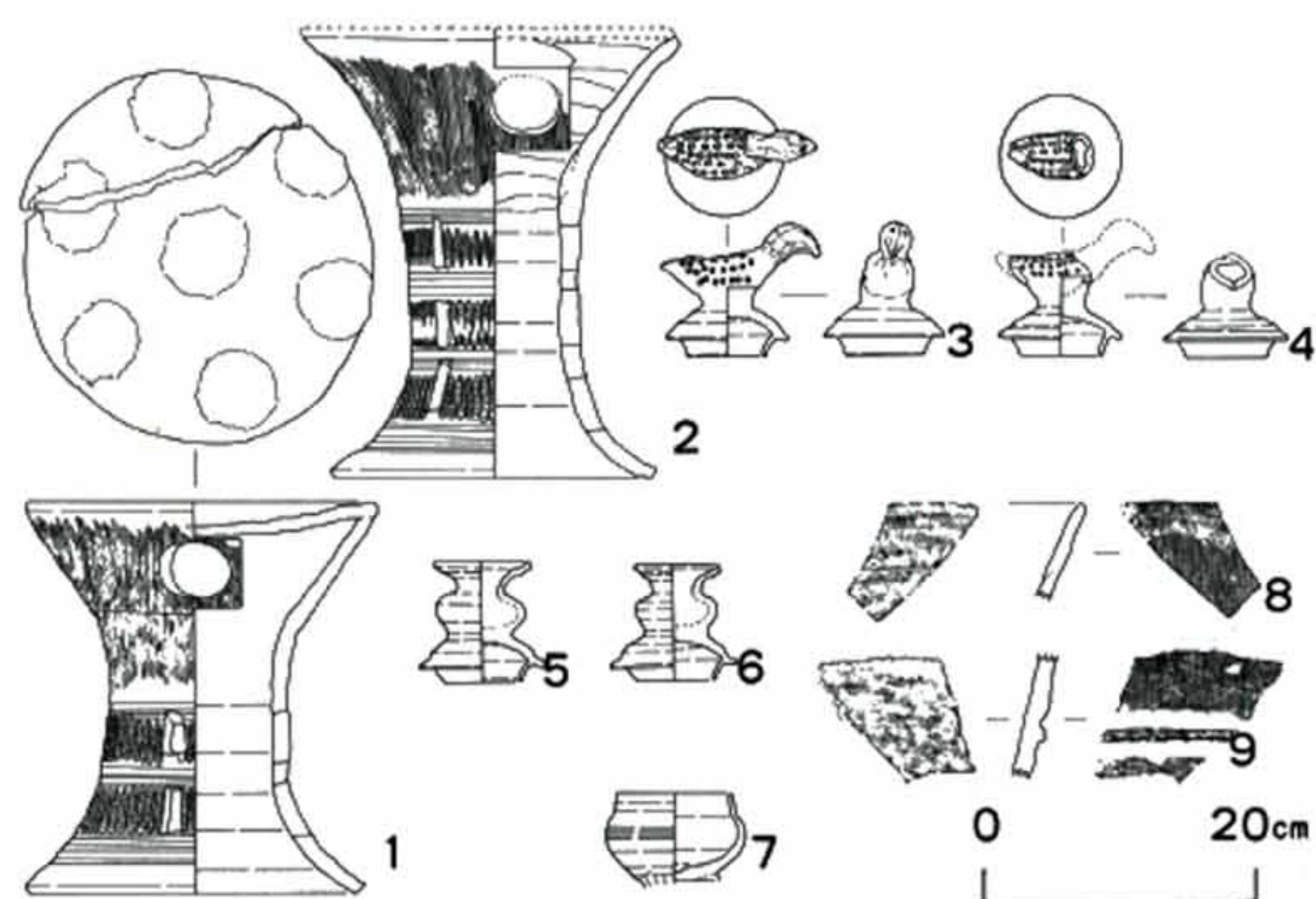
本資料は、現在、当センターが実施している市内遺跡詳細分布調査事業の現地踏査作業の過程で明らかとなった資料で、市内須衛町会本地区の地元の方により保管されていたものです。聞き取りによれば、同地区にかつて所在した古墳から出土したもので、同時に出土したとされるものに須恵質埴輪の破片(挿図8、9)があります。

本資料の特徴としては、脚部は通常の須恵器器台の調整と形態であるのに、台部が埴輪状の形態をとることです(挿図1、2)。また、台部に巡っていたと思われる短頸壺(挿図7)の蓋には、おそらく臚を模倣した紐のほか、形態にやや省略のみられる小型の鳥形紐が付属するものもあります(挿図3~6)。こうした器台に装飾壺類が巡るものや、鳥形の装飾品が付属するものは現在までに愛知県を中心としてよく知られていますが、器台そのものに埴輪の製作技法が影響を与えている例は、全国的にも例が少ないのではないかと考えられます。また、本資料を肉眼で観察する限りでは、本資料の製作地は須衛会本地区も含まれる美濃須衛古窯跡群(以下、美濃須衛窯という)であり、また、その製作時期は、蓋のかえりの形態から、ほぼ6世紀後葉代から7世紀前葉代にかけてのTK 209型式(陶邑編年)併行の時期が想定できます。

この時期は美濃須衛窯で継続的な須恵器生産活動が開始され始めた初源期にあたり、いまだその実態については不明な点が多いのですが、美濃須衛窯の当該期には、現在知られるかぎりでは畿内

を中心とする西日本の須恵器生産技術の導入が画期となっていることが判明しており、そのことが隣接する尾張猿投窯の生産技術系譜とは断絶関係にある間接的な証拠ともなってきました。しかし、今回、本資料が明らかとなったことにより、美濃須衛窯の須恵器製作集団に尾張からの工人参加も想定できることとなり、6世紀終わりから7世紀初めにかけての美濃地域の歴史的動向について、またひとつ問題を投げかけることとなりました。

また、埴輪生産の終末に関しても、現在知られるかぎりでは6世紀前半代を下ることはないと考えられますが、本資料の台部、そして同時に出土



須恵器特殊装飾付器台・須恵質埴輪

したとされる須恵質埴輪の破片からして、たとえ例外的現象であるとしても、須恵質埴輪の生産が少なくとも6世紀後葉代まで下る可能性が考えられ、美濃地域における後期古墳時代の社会体制に関わる問題として重要です。

日誌抄

***見学・来訪**

- 4月10日 岐阜放送「あなたの町から」撮影
- 4月10日 動く市民教室 東海中央病院新規採用職員(35名)
- 5月11日 岐阜縄文土器クラブ員ほか(36名)
- 5月25日 京都市埋蔵文化財センター(16名)
- 6月12日 動く市民教室 自治会連合会役員(30名)
- 6月26日 多治見市文化財保護センター(2名)
- 6月26日 動く市民教室 蘇原古市場老人会(30名)
- 7月31日 動く市民教室 公募による市民(30名)
- 8月18日 NHK「ふるさと歴史散歩」受講者(50名)
- 8月27日 京都大学文学部考古学専攻者(5名)
- 8月28日 動く市民教室 鶴沼第二小学校子供会育成協議会(34名)
- 9月18日 山梨県中巨摩郡埋蔵文化財担当者(7名)
- 9月19日 輪之内町高齢者学級(50名)
- 10月3日 石川県小松市議会議員(4名)
- 10月12日 岐阜放送「あなたの町から」撮影
- 10月23日 動く市民教室 つつじが丘婦人会(20名)
- 10月24日 動く市民教室 公募による市民(25名)
- 10月29日 川辺北小学校(31名)
- 10月30日 会津若松市生涯学習課(3名)
- 10月30日 美濃教育事務所員(10名)
- 11月1日 社会教育委員会(15名)
- 11月1日 動く市民教室 鶴沼台近隣ケアグループ(25名)
- 11月6日 動く市民教室 蘇原中学家庭教育学級生(25名)
- 11月7日 敦賀市職員(5名)
- 11月10日 鶴沼歴史サークル承国寺遺跡現場説明(20名)
- 11月13日 伊東市教育委員(8名)
- 11月17日 図書館体験講座受講者(22名)
- 11月22日 動く市民教育 子苑第一幼稚園家庭学級(17名)
- 12月18日 岐阜県博物館員ほか(3名)
- 2月19日 公立埋蔵文化財調査センター北陸・中部ブロック会議 研修会(19名)
- 2月20日 公立埋蔵文化財調査センター北陸・中部ブロック会議 市内遺跡現地見学(16名)

***資料貸出・実見**

- 4月1日 愛知県陶磁資料館 美濃須衛古窯跡群出土遺物(149点) 昨年度より継続平成9年3月31日まで貸出 常設展「猿投・瀬戸 全国古窯陶磁資料展」に展示
- 5月14日 岐阜県博物館 友の会会報 炉畑遺跡公園・復元住居跡写真1点貸出
- 5月22日 浜松市博物館(鈴木氏) 胎土分析資料提供古窯跡10点
- 6月12日 岐阜県日本最古調査会 太田1号古窯跡の発掘写真1点 「美濃国」刻印入り須恵器写真1点 「美濃国」刻印入り須恵器「拓本」の写し1点貸出
- 6月30日 岐阜市(内堀氏、井川氏) 資料実見
- 7月5日 関市文化課(田中氏、伊藤氏) 視察 岐阜市教育文化事業団(佐藤氏) 視察
- 7月6日 高山市文化課(田中氏) 視察
- 7月13日 岐阜市文化課(土山氏) 資料実見
- 7月23日 岐阜県文化財保護センター(大塚氏、大澤氏) 資料実見
- 8月11日 日本骨董学院 展示収蔵庫のビデオ撮影
- 9月13日 岐阜県博物館 炉畑遺跡出土資料貸出
- 10月29日 富山大学(学生中谷氏) 11月10日まで資料実見
- 11月15日 埼玉県埋蔵文化財調査事業団(山本氏) 資料実見
- 11月27日 金沢市市史編さん事務局(南氏) 資料実見

***職員派遣・指導鑑定等**

- 6月27日 美濃加茂市博物館展示計画検討委員会の委員(渡辺)
- 7月11日 各務原市学校事務職員研修会にかかる講師(渡辺)
- 11月12日 愛知県埋蔵文化財センター 美濃須衛窯関連遺物の鑑定(渡辺)
- 11月14日 岐阜市内出土遺物陶磁器の整理指導(渡辺)
- 2月17日 岐阜県文化財保護センター研修会講師(大熊)
- 3月10日 岐阜県文化財保護センター下有知遺跡群現地指導(渡辺)
- 3月11日 各務原市新規採用職員研修講師(大熊)

編集後記 今回から紙面をA4版にし、文字も大きくいたしました。ご感想をお寄せください。最新の発掘成果等を生涯学習講座として発表の機会を得ました。詳細は広報等に掲載しますのでお楽しみに。発掘調査にご協力いただいた事業者・近隣の皆様に厚くお礼申し上げます。

各務原市埋蔵文化財調査センターだより 第5号
 <平成9年3月>

編集発行 各務原市埋蔵文化財調査センター
 〒504 岐阜県各務原市那加門前町3丁目1-3
 TEL0583(83)1123 FAX0583(71)1145

<埋蔵文化財調査センターのご案内>

- 開館時間：午前10：00～午後5：00
- 休館日：毎週月曜日・祝日・年末年始および市教育委員会の定める日 (祝日が月曜日の際は火曜日も休館)
- 交通：名鉄各務原線市民公園前駅下車 徒歩1分
- 入場料：無料
- 駐車場：右図参照(JRと名鉄の間)

